

第1学年 音楽科学習指導案

平成17年9月27日(火) 第4校時

第1学年D級(男子20名, 女子21名)

指導者 藤盛 沙綾



1 単元 歌曲における表現の豊かさ

2 目標

- (1) 歌曲を意欲的に鑑賞する態度を養う。
- (2) 詩の表す情景と音楽とのかかわりを考えた朗読の表現の工夫ができるようにする。
- (3) 表現の豊かさを感じ取り、朗読の活動を通して表現する能力を育成する。
- (4) 速度や強弱などの表現要素から、曲の雰囲気や曲想を感じ取って鑑賞できるようにする。

3 指導観

- 本単元は、詩と音楽とのかかわりを学ぶとともに、歌詞を朗読する活動を通して歌曲に親しみ、自分なりの楽しみ方や表現の豊かさに気付くことで、歌曲における表現の豊かさを味わうことをねらいとしている。歌曲「魔王」(ゲーテ作詞 シューベルト作曲)は、語り手と3人の登場人物による1つの物語という設定になっており、生徒にとって親しみやすく、朗読などにおける表現方法の工夫につなげられる曲である。また、旋律構成から、登場人物の心情の変化を読み取ることもできるため、詩の表す情景と音楽とのかかわりを感じ取らせることにも適している。さらに、速度や強弱などの表現要素から、曲の雰囲気や曲想の変化を感じ取ることができる上でも適している。これらのことは、学習指導要領の第1学年の鑑賞の内容でも掲げられている。その内容とは、「声や楽器の音色、リズム、旋律、和声を含む音と音とのかかわり合い、形式などの働きとそれらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想を感じ取って聴くこと」や、「速度や強弱の働き及びそれらによって生み出される楽曲の雰囲気や曲想の変化を感じ取って聴くこと」である。この鑑賞を通して、音楽の持つ雰囲気や曲想に対する生徒の様々な感じ方を引き出し、朗読をすることで、歌曲における表現の豊かさを味わわせたいと考え、本単元を設定した。
- 本学級の生徒は、これまでヴィヴァルディ作曲「春」の鑑賞を行っている。しかし、歌曲の鑑賞を行うのは「魔王」が初めてである。「春」では、音楽が表現している情景をイメージしながら鑑賞する学習を行った。強弱や速度、リズム、楽器の音色や高さの違いなどの音楽表現から、情景をイメージして鑑賞することができた生徒が半分いた。そのなかでも、具体的な情景をイメージして鑑賞することのできた生徒は半分であった。この単元では、音楽と情景とのかかわりに加え、さまざまな人物やその持つ心情を声によって表現できるということを知り、表現の豊かさを味わう能力を養うことができると思われる。
- そこで本単元では、生徒個人によって異なる豊かな感性や感じ方を大切にしながら、表現の豊かさを感じ取ることができるような指導を行いたい。まず、譜面を見ながらそれにふさわしい登場人物の心情を表すために、表現の工夫点を考え、それをいかして「語り手」「子」「父」「魔王」の4役を1人で朗読する。そして、何人かの生徒が朗読の発表をし、それぞれ考えた表現の工夫点も発表する。表現の豊かさを全員で分かちあうことができるように、他の生徒が、自分の考えた表現の工夫点を発表できる場を設定する。あわせて、現代作曲家のジョン・ケージの「アリア」の鑑賞を通して、声による表現の多様性を感じ取る力も養うことができるようにしたい。その後、詩の情景と旋律構成から登場人物の気持ちを再度確認することで、詩と音楽とのかかわりについての理解を深める。そのために、詩の情景を想像しやすく、情景と音楽とのかかわりをスムーズに感じ取ることのできる歌曲「魔王」の鑑賞を通して、詩と音楽が一体となった劇的な内容を感じ取ること、歌唱表現の豊かさを味わわせたい。

4 指導計画

- 歌曲における声の表現の豊かさ _____ 2 時間
- (1) 歌詞の内容と音楽のかかわりを通した朗読の表現の工夫について _____ 1 時間 (本時)
- (2) 歌詞の内容と音楽との深いかかわりについて _____ 1 時間

5 本時の学習指導

(1) 目標

○声の特徴、表情を感じ取ることで、登場人物の気持ちを工夫して表現することができる。

(2) 資料及び準備

教科書、CD、再生機器、ピアノ、ホワイトボード、画用紙、歌詞カード

(3) 指導過程

学習内容及び活動	指導上の留意点	時間
1 歌曲「魔王」(日本語)を聴く。	○歌曲「魔王」のCDを準備する。 ○教科書を見て、自分なりの曲のイメージを描きながら聴くように助言する。 ○歌っている人数が何人なのかという点に気をつけて聴くように助言する。	4分
2 本時の学習内容と目標を確認する。 ○シューベルト作曲の歌曲「魔王」であること を知る。 ・歌っている人数 声の特徴、表情を感じとることで、 登場人物の気持ちを工夫して表現しよう。	○生徒が授業に見通しを持って取り組めるように、本時の学習内容を明確にする。 ○本時の活動への意欲を高めることができるように、目標をホワイトボードに提示する。 ○語り手と3人の登場人物を1人で歌い分けていることを説明する。	8分
3 原詞の訳を読み、情景を想像した上で朗読をし、表現の工夫点を確認する。 ○歌曲「魔王」の情景を想像する。 ○歌詞カードを見ながら、全員で通して朗読する。 ○「語り手」「子」「父」「魔王」の4役を1人で表現し、朗読の練習をする。 ○朗読するとき、登場人物の心情を表すための表現の工夫点を考え、歌詞カードに記入する。 ○朗読の発表をし、それぞれ考えた表現の工夫点を発表する。	○情景を想像しやすいように、歌曲「魔王」は、朝・昼・夜のいつの場面なのか、「父」はなぜ急いでいるのか、などを説明する。 ○次の朗読の練習に取り組みやすくするために、歌詞カードを見ながら全員で朗読する場を設定する。 ○譜面を見ながら、詩や旋律構成からふさわしい表現を考えて朗読するために、練習する場を設定する。 ○考えた表現の工夫点を歌詞カードに記入するよう指示する。 ○全員が自分で考えて表現を工夫することができるように、机間指導を行う。 ○代表の生徒に朗読の発表の場を設定する。 ○全員で、工夫点を把握することができるようにするために、朗読した生徒の表現の工夫点を発表する場を設定する。	25分

○さまざまな表現方法の確認をふまえた上で、全員で1度通して朗読する。 4 歌曲「魔王」（日本語訳）を聴きながら、1人で4役を歌い分けているという表現の工夫を確認し、本時の学習をまとめる。 5 1人で七色の声を表現するジョン・ケージの「アリア」を聴く。 6 次時予告を聞く。	○全員で分かち合うことができるようにするために、他の生徒が表現の工夫点を発表する場を設定する。 ○あらかじめ、「子」のところの最初の1～2小節を画用紙に書いておき、その画用紙を提示し、ピアノで演奏しながら指導する。 ○生徒自身が自ら表現方法を工夫したということに気付くような朗読の場を設定する。 ○生徒たちが自分たちで表現の工夫を行った上で、表現の豊かさを感じ取ることができるように、もう1度じっくり聴く場を設定する。 ○声だけによる表現の豊かさに気付かせ、本時の学習をさらに深めるために、ジョン・ケージのアリアを聴く場を設定する。 ○次時への期待を持つように、次時は、詩の情景と音楽とのかかわりという点にさらに着目して、表現方法を工夫し、表現の豊かさを味わう活動をすることを告げる。	41分 45分 49分 50分
--	--	---

6 板書計画

「魔王」 シューベルト作曲									
朗読における表現の工夫点									
語り手 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 50%; text-align: left; padding: 5px;">表現の工夫点</th> <th style="width: 50%; text-align: left; padding: 5px;">その理由</th> </tr> <tr> <td style="height: 150px; vertical-align: top; padding: 5px;"> 子 </td> <td style="height: 150px;"></td> </tr> </table>	表現の工夫点	その理由	子		父親 <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th style="width: 50%; text-align: left; padding: 5px;">表現の工夫点</th> <th style="width: 50%; text-align: left; padding: 5px;">その理由</th> </tr> <tr> <td style="height: 150px; vertical-align: top; padding: 5px;"> 魔王 </td> <td style="height: 150px;"></td> </tr> </table>	表現の工夫点	その理由	魔王	
表現の工夫点	その理由								
子									
表現の工夫点	その理由								
魔王									

声の特徴、表情を感じ取ることで、登場人物の気持ちを工夫して表現しよう！

ジョン・ケージ作曲「アリア」の楽譜